

保護者様

長崎市立小江原小学校  
校長 高水 靖夫

学校評価アンケートの結果について

春暖の候、保護者の皆様におかれましてはますますご清祥のことと存じます。日頃より、本校教育活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、学校評価アンケートについては、お忙しい中にご回答いただき、誠にありがとうございました。アンケートの集計が終わり、学校評議員会を終え、対策等の見直しを行いましたのでご報告いたします。

結果については今年度の教育活動の効果等を振り返る貴重な資料とし、今後の教育活動に生かしてまいります。

1 自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児童生徒	保護者	教職員	
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	95	82	92	教育目標の項目全てが、保護者・教職員ともに昨年度より肯定的割合が5ポイント以上高まった。今後は、さらに保護者の肯定的割合が高まるように教職員一丸となり取り組みたい。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	88	83	100	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			100	
	業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			100	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	52	68	50	本校の継続課題である「ルールやマナー」「挨拶」「いじめ防止」の項目の児童・保護者評価の肯定的割合が依然として低い数値であった。教職員同士の援助や支援員・学校サポーターの配置により担任一人で学級の状況を抱え込まずに、全職員によるサポート体制を整えており、教職員の評価は高まっている。今後も毎月の生活アンケートをもとに継続してきめ細やかに対応していきたい。
		挨拶をよくしている	86	58	100	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	92	87	92	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	89	82	100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	70	71	100	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	93	68	75	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	96	79	100	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	94	84	100	
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	76	88	92	保護者評価において「家庭学習習慣」の肯定的割合が低かった。家庭学習の習慣化については、与えられた課題のみの学習から自主学習「けふれ学習」への変換を図り、引き続き家庭への啓発を行う。
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	94	92	100	
		家庭学習の習慣が身に付いている	81	60	89	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	83	87	100	
長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである		91				

健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	78	84	100	基本的な生活習慣の評価が低く、十分身に付いていないと自覚している児童や保護者が一定数いる。食に関する教育も含めて家庭の協力が必須であるため、今後も育友会と連携し学校保健委員会や懇談会で話題として挙げ、健やかな体づくりへの取組を進める。
	体力向上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的な生活習慣)が身に付いている	73	80	100	
		体力向上に努めている	91	88	100	
	食育	食に関する教育活動を行っている	79	76	100	
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	96	87	100	情報提供の項目で保護者の評価がやや低い。学校では、紙媒体だけでなくHPに学校だよりや月行事を掲載している。また、一人1台端末を活用して毎日学級の情報を発信している学級もあり、保護者への周知も図っていききたい。
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	93	78	100	
	PTA・地域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	84	84	100	
	職員資質向上	研修が充実し、資質が向上している			100	
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	90	68	100	トイレ設備へのご意見があった。教室など実現可能な環境をより良い状態へ整備していきたい。
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			100	

## 2 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

保護者・教職員ともに、教育目標の達成について昨年度より肯定的割合が高まった。その原因は、今年度から学校教育目標の具体化を「自律し、尊重し合う子どもを育てる」とし、全ての教育活動をその最上位目標へ向けて見直し、そのことを教職員の共通理解のみではなく学校だより等で保護者にも啓発を続けている結果であると考えられる。校内では昨年度に比べて暴力・暴言等の問題行動が減ってきており子どもたちが安心して学習・生活できる環境が整いつつあるが、廊下歩行についての課題があり児童会でも取組を継続している。また、朝の挨拶はできるが、それ以外の場面での挨拶に課題がある。この2点が改善すれば「ルールやマナー」の項目の数値の向上が期待できると考え、指導を続けている。心の教育については「いじめ対応」について肯定的評価の割合が高いとは言えない状況が続いている。今後も「全ての職員で全ての児童を育てる」の共通理解のもと、日々の教育活動に粘り強く継続的に取り組んでいきたい。また、基本的な生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん)や家庭学習の習慣化など、保護者の協力なくしては改善できない部分は、引き続き家庭教育の充実のための啓発を行うとともに、児童自身にもその重要性を指導し、改善への意欲を高めるように励ましていきたい。

## 3 学校関係者評価

「学校経営」の肯定的割合が増えていることについて、学校の取組の成果であることを認めていただいた。児童の肯定的割合が低い「心の教育」の項目ではあるが、巡回授業参観で見た子どもの姿は、学校に来るたびに変わり続けており、以前は子どもたちから声をかけてくることはなかったが、今回の参観では自分が作ったアンケートの回答を求められ、子どもから声をかけてくる姿があるなど成長を感じたとの感想をいただいた。「確かな学力」では、授業で先生方が子どもと一緒に溶け込んで活動していた、学習者用PCなどICT機器を教師も子どももよく使いこなしていた、子どもは教師の指名に堂々と発言して度胸があると感心したなど、分かりやすい授業を行うための教員の努力や研修まで認めていただき、励ましのお言葉をいただいた。ICT機器を活用した授業など、変化し続ける社会の要請に対して教師の学び続ける力や、子ども自身のやる気をいかに引き出すことが重要であることを確認した。子どもたちの姿が変わってきているのは、先生方の尽力によるものと労いのお言葉をいただいた。

## 4 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

- ・「心の教育」のルールやマナー、挨拶の指導は、今後も児童会活動と関連付けながら、児童自身がルールやマナーを守ることが安全な学校生活につながることを理解させ、実践することができるようにしていきたい。
- ・「確かな学力」の項目では、自主的に学習に取り組むことができる環境を整えていくとともに、家庭学習については発達段階に応じた指導を行いながら今後も自主学習を推奨していく。
- ・「健やかな体」の項目では、各家庭や育友会保健部と連携・協力しながら、基本的な生活習慣を身に付けさせていく。
- ・「信頼される学校」のために、今後も学校の課題を全職員で共有し、担当者や担任が一人で抱え込まないように共通理解のもとで取組をすすめる。□

□